

NST新聞



第25号 平成29年8月1日

テーマ「NSTと薬の関係」

薬剤師 石田 千聡

NSTで薬剤師は薬について関わります。栄養投与という観点からは栄養剤や輸液の提案。また、投与されている薬剤の副作用や食べ物との相互作用の確認、味覚障害や食欲不振などのときに適応がある薬剤の提案、などといった形で関わります。

静脈栄養



中心静脈から投与する高カロリーの一の輸液栄養です。当院ではフルカリック、ハイカリックなどがあります。消化管を使用できない場合などに静脈から投与されます。

糖・タンパク質・ビタミンが総合的に入っている製剤がフルカリック。※高カロリー輸液にビタミンB1は必須で、必ず一緒に投与します。(糖を代謝させるためにB1は必要！併用しないと乳酸アシドーシスやB1欠乏症になります。)

ほかには糖質、タンパク質、ビタミン、脂質など必要なものを組み合わせて投与する製剤が採用されています。

経腸栄養



消化管が使用できる場合に、投与される栄養剤です。当院では消化を必要としないアミノ酸などで構成されている消化態栄養としてエレンタール、消化を必要とするタンパク質で

構成されている半消化態栄養としてエンシュア・リキッド、エンシュア・Hがあります。

経口から投与できることもあり、様々なフレーバーがあります。

薬剤と食べ物との相互作用

食事の影響で薬の効果が減弱したり、増強したりするものがあります。



例えば、血栓予防薬のワーファリンは納豆、青汁、クロレラで作用減弱。

一部の降圧剤はグレープフルーツジュースで作用



増強。

※納豆はサプリメントに納豆菌として入っていることもあるので注意。

などなど…

食事との影響をよく確認し、情報提供するようにしています。

薬の副作用

薬の副作用は様々ありますが、NSTに関係するものとしては

ステロイド、抗ヒスタミン薬など…食欲増進
抗がん剤、抗パーキンソン薬など…味覚障害
抗がん剤、骨粗鬆症薬など…嘔気・嘔吐
利尿薬…高K血症、低K血症
などが例として挙げられます。

上記のような症状が出ている場合薬の副作用を考えます。

症例から薬剤の選択

まずは原因とされる薬剤が出ているか確認して、そのあと症状により薬剤を考えます。

・高K血症、低K血症

降圧剤のACE阻害剤はK保持性利尿薬との併用でK値が高くなる事があります。

ほかの利尿薬を使用した場合は低K血症になる場合もあります。

薬剤としてはKを下げるアーガメイトやKを補充するアスパラカリウムなどがあります。

・食欲不振

食欲増進薬として胃腸を動かして食欲を上げるガナトン、六君子湯、エリーテンなどがあります。

・味覚障害

亜鉛欠乏での味覚障害の場合、亜鉛含有の胃薬であるプロマックが使われます。

他にもたくさんの症状があります。